

2011年1月4日

廣瀬 博 社長 年頭あいさつ要旨

当社は昨年4月に、新しい中期経営計画をスタートさせた。今年はその中間の年に当たり、**目標達成へ向けた確実なステップアップが必要な年**となる。計画策定時に比べ、円高進行などの経済環境の変化や、アジアを中心にした経済の枠組みが激変する中、これらの変化にも的確に対応し、本中期経営計画を達成しなければならない。

最大の課題は、先行投資からの収益・キャッシュフローの早期獲得である。ペトロ・ラービグは安定高操業による収益の計上、豪州農薬会社との連携ではシナジー効果を活かした販売増加や新製品開発、また、2月に予定している米国での統合失調症治療薬の上市および売上高の早期最大化などといった取り組みにより、予定していた収益を早期に獲得していく。そして、キャッシュフローをプラスへと転じ、D/Eレシオを改善し、財務体質を強化する。

同時に、安価原料の調達や原単位・収率の一層の向上、生産品目の厳選、グループ全体でのロジスティクスの合理化、マーケティング力の強化、間接業務の抜本的見直しなどにより、厳しい国際競争を意識したコスト競争力の一層の強化に努力する。一方、コーポレートスローガンとして掲げる「創造的ハイブリッドケミストリー」の典型例であり、当社が誇る様々な技術を結集して開発に取り組んでいる高分子有機ELなど次世代を担う新製品については、製販研が一体となってグローバルな事業化の推進に、従来以上のスピード感を持って取り組んでいく。

また、時代の変化に対応した職場意識の変革と、社会からの高い信頼の獲得を目指し、①安全意識の一層の高揚、②化学物質管理に関する世界的な規制強化への的確な対応、③CO2排出量のさらなる削減、④ダイバーシティの積極的な推進、⑤コンプライアンスの徹底、の5点について、社員全員の意識の高揚を図り、当社の経営理念に定めている「活力にあふれ、社会から信頼される企業風土の醸成」に努めていく。

今年一年心掛けてほしいことは、「**徹底的に知恵を出し、一致団結して今の難局に果敢にチャレンジしていく**」ということ。国内外の事業環境はこれまでにないスピードで変化し、パラダイムも大きくシフトしているだけに、状況分析を的確に行い、リスクを解析し対応策に知恵を絞らなければならない。また、個々人がどんなに優れていても、一人だけでできる仕事は多くなく、コミュニケーションを積極的に図り、情報を共有化し、一致団結しなければ今日の難局は乗り越えられない。さらなる発展を目指して、全員が目標に向かって果敢にチャレンジしていく逞しい職場風土のもと、互いに切磋琢磨し合い、プロアクティブに行動する人間集団として前進を続けていくことが大切だ。

以上